

# 子育て世代に向けたモビリティ Proposal of mobility for raising children

磯貝左京  
指導教員：比留間真

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 空間・工業意匠研究室

キーワード：子育て、イクメン、モビリティ

## 1. 研究目的

近年夫婦の働き方が多様化し、男性が仕事に行き、女性が家の家事を行うと言うスタイルが変わりつつある。女性が仕事を行い男性が家事や子育てを行う場合や、女性も男性も仕事があり家事は分担し、子育ては保育園や幼稚園に早いうちから任せる家庭も珍しくない。そんな中で子育てをする男性の事を「イクメン（育児をするメンズの略称）」と呼ぶようになった。本研究では、特に男性が家事や子育てを行うイクメンのためのモビリティを提案する事を目的とする（図1、2参照）

第20図 固定的性別役割分担意識（夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである）



備考) 内閣府「男女共同参画社会に関する国際比較調査」(平成14年)、「男女共同参画社会に関する意識調査」(平成14年7月)より作成。

図1 役割分担意識調査  
(第20図 固定的性別役割分担意識 より)

第21図 育児期にある夫婦の育児、家事及び仕事時間の各国比較



備考) 1. OECD「Employment Outlook」(2001年)、総務省「社会生活基本調査」(平成13年)より作成。  
2. 5歳未満(日本は6歳未満)の子供がいる夫婦の育児、家事労働及び稼働労働時間。  
3. 妻はフルタイム就業者(日本は有業)の値、夫は全体の平均値。  
4. 「家事」は、日本以外については「Employment Outlook」(2001年)における「その他の無償労働」。  
5. 日本については「社会生活基本調査」における「家事」、「介護・看護」及び「買い物」の合計の値であり、日本以外の「仕事」は「Employment Outlook」(2001年)における「稼働労働」の値。

図2 実際の仕事・家事の時間  
(パパ育児、ママ育児、こんなに違うから面白いより)

## 2. 調査内容

子育て世代に対してモビリティを提案する前に、ターゲットとなる子育て世代を調査する必要がある。

る。そのため調査内容にて以下の項目に分け調査した。

### 2-1. 提案を必要とする年齢

0歳と18歳の子育ては全く違うように、子育ての子供の年齢にて必要とされるものが違う。そこでターゲットを絞るために法令や市場を調査した。調査の結果、ジュニアシートに相当する年齢(6-12歳)が最適ではないかと考えた。

### 2-2 男性と女性の子育ての違い

男性と女性では子育ての中でも細かい違いがある。例えば乳幼児のこどもを持つ親で女性の場合哺乳瓶はサブで持つ方が多いが男性にはメインとして必須だ。他にも男性が子供と遊ぶ場合外遊びに連れて行く傾向が女性よりも高いが、女性は室内で遊ばせる傾向が高い。

### 2-3. 子育ての子供に関する法令

法律にて12歳以下を乗せる運転者に設置の義務がある。しかし、車にシートベルトがついていない場合は幼児用補助装置を固定することができないケースとして着用義務が免除される。

### 2-4. 子育てに対する車の既製品と提案

子育て世代にすでに提案されている車や提案には、「イクメン」にフォーカスした物は存在しなかった。しかし、外に遊びに行く(アウトドアなど)年齢の子育てに対してはスズキのタントなど国内の自動車メーカーが軽自動車を中心に提案していることが調査の結果わかった。

## 3. 調査でわかったこと

### 3-1 既存の車使用時の問題点

現状の車に子育てをする際の問題点は大きく分けて3つあることがわかった。

- ① 子供の姿勢の維持
- ② 子供用シートによる車の積載量の減少
- ③ 子供の様子を見にくい(車酔い等)

12歳以上の子供はジュニアシートが要らなくなるため、親たちが子供向けコンセプトの車を買わずSUVやセダン型の車を買う傾向があった。しかし本来子育てにふさわしい形の車ではない。なぜならば、ほとんどが成人をターゲットユーザーにした製品であるためだ。そのため室内の導線は成人の体格にあわせられているため子育てなどターゲットから外れたユーザーにとって使いづらい。たとえば成人が座るように設定された椅子に12歳の子供が座

ると寸法があまりに小さいシートベルトの効力が弱まってしまふ等の影響もある。

### 3-2 育てにおいて過去と今の大きな違い

昔は家の中で母親が育てることがほとんどであった。そのように子供を育てた経験を持つ女性を親に持つ今の世代の女性は、母親から「昔は人様に迷惑をかけないように育てていた、と言われることが多いのだ」と言う。しかし、実際に母親の世代は時代背景や世代的にみてほかの年代より家庭内の人数が多く、（姉妹兄弟平均4人以上）家庭内でも複数人で育てていて、子供を取り巻くいわゆる保護者ネットワーク環境が家庭の中にあったのだ。（図3参照）現代は母親だけで育てなくなったとはいえ、親の姉妹兄弟は平均2人という数字が出ている。そのため「人様に迷惑をかけず家庭の中だけで育てる」という様な同じ育て方ができなくなっている。そうした中で現代は親同士の「子育てネットワークの多様化」が望ましいことがわかった。



図3 兄弟姉妹の構成の推移  
（兄弟姉妹の構成の推移 より）

### 3-3 子育て世代の車の使用目的

子育てのために車を使用する目的は以下の通りであった。

- 1：買い物のため
- 2：子供を乗せての移動のため
- 3：移動時の積載量が多いため

上記のことから、現代の子育てにいて車の有用性が高いことがわかった。

### 3-4 子育ての仕方の多様化の現状

子育ての仕方が多様化した、やはり男性をターゲットにした製品は少ないことがわかった。そのためイクメンをターゲットにして研究をするひつようがあると感じた

## 3. コンセプト

「育て世代にふさわしい移動手段を。」  
既存製品（車など）と異なり、設計寸法など本来の「子育て」に対応した移動手段を提案する。

## 4. アイデア展開

男性が子供と関わる際の最も自然な形から室内配置を提案する。より男性が子育てに積極的に参加で

きるような子供との関わり方につながると考えられる。

## 5. 今後の展開

いかに子供も育児をする男性も快適に過ごせるか検討する必要がある。検討の仕方は以下の通りである。

- 1: アイディアスケッチからレンダリング・図面を作成。
- 2: 1分の1スケールモデルを製作。
- 3: スケールモデルを用いて幼稚園や児童館など親子が集まる場に持っていき検証。
- 4: 検証結果や聞き込み調査を用いて改善。

## 6. 参考文献

- [1] 神奈川県警察署「チャイルドシート Q&A」  
<https://www.police.pref.kanagawa.jp/mes/mesf2012.htm#q4>
- [2] 第20図 固定的性別役割分担意識  
[http://www.gender.go.jp/about\\_danjo/whitepaper/h15/summary/danjo/html/zuhyo/fig01\\_00\\_04\\_02.html](http://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/h15/summary/danjo/html/zuhyo/fig01_00_04_02.html)
- [3] パパ育児、ママ育児、こんなに違うから面白い  
<https://allabout.co.jp/gm/gc/439355/>
- [4] すべての座席でシートベルトを着用しましょう  
<https://www.npa.go.jp/bureau/traffic/anzen/seatbelt.html>
- [5] 兄弟姉妹の構成の推移 文部科学省  
[http://www.mext.go.jp/result\\_js.htm?q=%E5%85%84%E5%BC%9F%E5%A7%89%E5%A6%B9%E3%81%AE%E6%A7%8B%E6%88%90%E3%81%AE%E6%8E%A8%E7%A7%BB#resultstop](http://www.mext.go.jp/result_js.htm?q=%E5%85%84%E5%BC%9F%E5%A7%89%E5%A6%B9%E3%81%AE%E6%A7%8B%E6%88%90%E3%81%AE%E6%8E%A8%E7%A7%BB#resultstop)